人形劇脚本集

第 2 集

人形劇団ひとみ座編

未　來

人形劇團ひとみ座編

人形劇脚本集

本書の収録作品の無断上演を禁じます。
上演の際は必ず未来社にご連絡下さい。

人形劇脚本集　第二集

1957年1月15日　第一刷発行

定価 230 円

© 編者　人形劇団ひとみ座

編者との了解で検印を廃す

発行所
株式会社　未・来　社
東京都 文京区 駒込 東片町 8
振替・東京87385 電(92)6966

発行者　西　谷　能　雄
東 京・文 京・東片町

印刷者　関　口　正　博
東 京・新 宿・山吹町

落丁・乱丁には責任を負います。　(光陽印刷・富士製本)

人形劇脚本集　第二集　目次

イワンが貰った金貨を生む小山羊の話（二幕五場）……三
チビクロ・サンボ（一幕）……四九
天狗のうちわ（一幕二場）……七三
にわとり長者（六景）……一〇九
トン吉とカラス（一幕）……一五九
お馬に化けた狐どん（四景）……一七一
あとがき……三九

さしえ　片岡晶

表紙デザイン　矢野真

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

食欲のないおはなし

佐々俊之

第一幕

一場

イワンの家の軒がのぞいている。
遠く広がる黄金色の麦畑。
白樺の木、柵。初夏の刈入れどきである。
刈り取った麦を山と積んだ車を押してくるイワンとナターシャ。

イワン

ナターシャ

ナターシャ　兄さんお茶を沸しておこうね。

イワン　うん、それがいい。

ナターシャは家の中へ入る。
麦束を車から降して、庭先に積み上げるイワン。
柵の向うを隣のおばさんが通る。

おばさん　精が出るね、イワン。

イワン　ああ、こんにちわ、おばさん。

おばさん　刈りとりが終ったのかい？

イワン　もうすこしだよ。

おばさん　お前さんはほんとに働きものだ。

家の畠なんかまだ半分も刈れちゃいない。これじゃ、肥っちょの旦那にまた叱られるよ。

ナターシャ　（顔を出す）おばさん、こんにちわ。恰度いい、いまお茶を沸しているのよ。

おばさん　そうかい。じゃ御馳走になっていこうかね。（と家の中へ入る。）

イワンの仕事はつづく。

「グワッ、グワッ」と鳴きながらあひるが馳け寄る。

イワン　こうら、向うへ行ってろ、おらあ忙しいんだぜ。

ナターシャ　兄さん、お茶にしようよ。

イワン　ああ、いまこれをかたしてからだ。雨が降ってくるといけないからな。

おばさん　雨が降るのかい？　イワン。

イワン　うん、雨が降るか、大風が吹くか、わからないけど……向うに黒い変な雲が出て来たよ。

おばさん　そりゃあ大変、あたしのとこでも麦が沢山乾してあるんだよ。御馳走さん！

（マルーシャ慌てて帰ろうとする。）

イワン　ゆっくりして行きなよ、おばさん。

おばさん　冗談じゃないよ、雨にあたったら麦はみんなくさっちゃうし、大風でも吹いたらみんなとばされちゃうよ。……さよなら。

イワン、ナターシャ　さようなら。

イワンとナターシャは仕事にかかる。

おばさんが戻ってくる。

ナターシャ　どうしたのおばさん？

おばさん　大変だよ、肥っちょの旦那がこっちへくるよ。家来のやせうまも一緒だよ。あいつはほんとにいやな奴だよ、人の顔をみるとすぐ怒鳴りつけるんだから。あたしは向うの道から遠まわりしてゆくよ。……ナターシャ、あんたも家の中にかくれてた方がいいよ。（と下手へ去る。）

ナターシャ　そう。（と家の中へ入る）

一人仕事をつづけるイワン。

下手から、肥っちょの旦那スミルノフと家来のやせうまがくる。

やせうま　おいイワン。

イワン　あー？

やせうま　やい！　イワン。

イワン　なんだね、コローブキンさん。

やせうま　なんだねじゃない。旦那さまだ、御挨拶をしろい。

イワン　ああこんちわー。

やせうま　この野郎！　挨拶の仕方を教えてやろうか！（ムチを振り上げてイワンに近寄る）

グワッ、グワッ、とあひるが出てくる。

やせうま　ヒャー……（と、とび退って旦那にすがりつく）

旦　那　やいやい、どうした。

やせうま　あ、あひるでさあ、生れつき大嫌いなんで……やい、イワン！　その気味の悪い奴をひっこめろ！

イワン　ああ、このあひるかね？

やせうま　そうよ、早くそいつをひっこめろ。

イワン　シィッ、シィッ、むこうへ行ってろ。（ゲワッ、ゲワッと逃げ廻るあひるをイワンは家の中へ追い込む）

やせうま　いやな啼き声だ。ペッ！　気持が悪くなって来た。　**スミルノフ**

旦　那　おい、イワン。

イワン　ああ？

やせうま　ちゃんとして返事をしろい！

旦　那　お前の畠の麦はどうだな。

イワン　ああ、お陽さまのお蔭でよくみのっただ。もうじきに刈り取りは全部終るだ。あとは籾こきと殻打ちだ。

旦　那　今年は麦をかますに十三杯、じゃがいもは……ええと、じゃがいもは……。

やせうま　かますで六杯。

旦　那　そうだ、かますで六杯。……年貢としてとりたてる。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo

やせうま　どうだ納められるか？

イワン　ああ、いいだよ。

やせうま　一日でもおくれたら、牢屋にぶち込むから、そのつもりでいろ。

イワン　ああ、麦は、明日にでも納めに行くだ。それでここにも、畠にもいっぱい乾してあるだよ。

旦　那　よおし。……おい、隣へ行こう。

やせうま　はい。……ええと隣は、アリョーシカの家でございます。

やせうまを案内に立て、肥っちょ行く。

ナターシャ　（そっと顔を出す）行っちゃった？

イワン　ああ。

刈り入れの歌を唄うナターシャ。
グワッ、グワッとあひるの声。
コッ、コッ、コッ、と沢山のにわとり。
鳴き声を挙げながら、それらがぐるぐると、庭先をかけまわる。

ナターシャ　どうしたの？　どうしたの？　何処かの野良犬でも来たの？（イワンに）ねえ兄さん、一体どうしたんだろうね。

イワン　（空を見上げて）あッ、天気が変るだ。

ナターシャ　ああ！　兄さん、あんなに雲がとぶ！　真黒な雲！

イワン　ナターシャ！　こりゃ大風が吹くだよ。

ナターシャ　風⁉

イワン　うん。おらあ、畠の麦が心配だ。（と言い捨てると、車を押して去る）

ナターシャ　こっちのは、あたしが家に入れとくよー。

イワンの声　ああ。

ナターシャ　（にわとりとあひるを探しながら）コッコッコッコ……さあさあ、はやく家にお入り。はやく、はやく。（あひる、にわとりを家の中に追い込む）

空が黒雲で覆われる。

間もなく、激しい唸りを立てて風が吹き立つ。激しい風。木々の小枝を藻草のようにしならせて麦やむしろを、そして麦束を、空高く捲き上げる。

ナターシャ　あーっ！　あーっ！（大声で）兄さん！　イワン兄さん！　風が、風が、みんなとばしちゃうのよう！

揺れ動く空を黄金色におおって、麦がとぶ。すべてのものが揺れ動く激しい風。

ナターシャ　ああ、神様！　お願いです。ここにも畠にも麦がたくさん乾してあるんです。お願いですから止めてください！

ナターシャ地に伏せる。

——暗　転——

二　場

解　説　風！　風！　風！

何処かに風の神様がいて、働いて汗した頬に快よい風を送り、黄金の小麦を白く波打たせる。

お百姓さん達はみんなそんなふうに考えていました。

突然の激しい風に、折角刈りとった小麦を、すっかり吹きとばされたイワンは（イワン

の声）〝風の神様に会いに行くだ。神様に会って麦を返してもらうだ〟そういって風の神様を探しに出かけました。

しかし、そよ風に蝶の舞う南の国にも、熱い砂が天高く吹き上げられる灼熱の砂漠にも風の神様はみつかりませんでした。

幾日も、幾日も、歩きつづけたイワンは、やがて、冷い氷と真白な雪におおわれた広い野原に来てしまいました。ひょっとすると、此処は、もう北の果なのかも知れません。

コーラスで溶明。

雪の野原。空は暗い。遠くの丘を行くイワンの小さな影。

イワンの雪をかぶった旅装。間もなくイワンは、何かにつまづいて転ぶ。

舞い立つ雪。妙なる音楽。そして風の神が登場する。

風の神　イワン……イワン。

イワン　ああ？（振り返る）

風の神　お前は、何をしに来たんだな。

イワン　おじいさんこそ何んでこんな寒い所にいるんだね。

風の神　うん？

イワン この辺に住んでる人かい？

風の神 う、うん。

イワン それなら、聞きたいことがあるだ。この辺で風の神様をみかけなかったかい？

風の神 ほほう、風の神に会ってどうするのだな？

イワン おや！　知ってるのかね。おらあ、風の神様に会ったら、頼みてえことがあるだよ、どうしてもいって聞かせてやりたいことがあるんだよ。

風の神 ほほう、それは面白い……。

イワン 面白がってねえで、風の神様の家を教えて下せえ。どの道を行けばいいのかね、おじいさん？

風の神 風の神はな……お前の眼の前にいるよ。

イワン え？

風の神 わしだよ、イワン。わしがお前のたずねる風の神だ。

イワン おじいさんが風の神様かね!?……ああ——おらあずい分探しただ。……じゃあ早速に聞いてもらいてえ、お前さんの吹かせた風がとんでもねえことをしただよ。

風の神 すると、わしが、何か、お前の気を悪くする様なことをしたとでもいうのかな？

イワン ああ。おらあ、気を悪くしているだ。おらばっかりじゃねえ、おらの家の隣りのマ

ルーシャおばさん……知ってるかい？

風の神　ああ知ってるとも。お前の隣りのな……。

イワン　そうかね。マルーシャおばさんだってその通りだ……お前さんの風が麦を吹きとばしただよ。おらたちがえらい苦労してやっと作った麦を、みんな散らかして行っちまっただよ。

風の神　ううん、そうか……。

イワン　おまけに、その麦は、地主さまに納める麦だ。かますで十三杯、どうしても納めなけりゃあならねえだよ。もし麦を納めなけりゃムチで叩かれるし、牢屋に入れられるだ。みんなほんとに困ってるだよ。……おらあお前さんをずい分探しただよ。……なあ、お願いだ、風を吹かしてくれるのは有難いけど、おら達貧乏人のものだけは吹きとばさねえようにして下せえ！

風の神　うん、全くお前のいう通りだよ。刈り入れ時に大風を吹かせたのは、ほんとにわしが悪かった。なあイワン、許しておくれ。

イワン　なあに、そんなに謝らなくてもいいだよ。それよか、吹きとばされた麦をおら達に返して下せえ！

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbo